

6 むすび

- ・一旦できあがった市街地を整備することは、新たに市街地を作ることよりもはるかに困難であり、ましてや老朽木造住宅等が密集している市街地ではなおさらである。こうした密集住宅市街地は、防災をはじめとする様々な問題を抱え、大都市政策の重要な課題となっている。
- ・6,434 人もの尊い命が犠牲となった阪神・淡路大震災から、今日に至るまで、大規模な地震が次々と発生するなか、今一度、大阪市の密集住宅市街地が直面している深刻な状況について、改めて市民と共に考えていくことが重要であり、こうした認識にたつて、大阪市として、これまでの密集住宅市街地の取り組みを踏まえ、施策の強化・拡充等により、より実効性のある施策を積極的に展開していくという観点から、本戦略が策定されることとなった。
- ・密集住宅市街地整備は、防災をはじめとする都市整備上の課題であると同時に、そこに住む地域住民にとっても重要な課題であることから、今回の提言では、「地域住民等との連携」を基本とし、地域住民・地権者の力に依拠する「規制誘導手法の活用」を重視した戦略を立て、従来からの施策とあわせ、多様な施策を提案した。
- ・まちづくりの担い手である地域住民や地権者等の意欲を喚起し、まちづくりへの積極的な参加・協力を求めるとともに、その担い手とどのように連携し、施策の実現を図っていくのかということが重要である。また、地域の実情に応じて施策の的確かつ効果的な選択と組み合わせを行うとともに、地域におけるまちづくりの機運の高まりを促すことが必要である。
- ・こうした施策展開を可能にするためには、財源の確保に努めるとともに、国や関連部局との連携・協力体制の確立などが必要である。また、密集住宅市街地整備の進捗状況や地域の意向を常に把握し、問題点や課題の整理を行うとともに、必要に応じて、目標や施策等を見直すものでなければならない。
- ・さらに、防災まちづくりは「魅力あるまち」への総合的なまちづくりの一環であるという認識のもと、大阪市におかれては、この提言を踏まえ、今後の密集住宅市街地の整備をより一層戦略的に推進し、大阪市ならではの「安全で安心して暮らせるコミュニティの息づく魅力あるまちの実現」を図られるよう強く希求するものである。